

在外教育施設での教育実践

ニュージャージー日本人学校における実践と課題
西海市立白似田学校 嵩 和久



九州ブロック研究会のプレ発表としての実践報告でした。教頭として、編入学検討保護者への対応、スクールバスの安全運行管理、教職員の安全対策についての報告がなされました。児童生徒数が減少する中、教頭としての一番の職務は、余裕のある学校経営のために児童生徒数を増やすこと…。そのためには派遣教員が全力で児童生徒の教育に当たり、教育の質を上げていくことが大切であるという話がありました。

高雄日本人学校における実践と課題
長崎大学教育学部附属小学校 中村 俊一 先生



高雄日本人学校へ赴任された中村先生の教育実践報告でした。現地校との交流会や現地理解教育の取組、校舎改築による移転、現地校との共有校舎での教育など、写真を交えながら報告していただきました。特に、地域素材の開発や運動能力の向上を目指した取組など特色ある実践は非常に興味深いものでした。貴重な体験をふり返り、“感謝”の言葉でまとめられていました。

国際理解教育講演会

「中華人民共和国の教育事情」

長崎市立高城台小学校
校長 河田 重吉 先生



6月12日から19日まで、中国政府日本教職員招聘プログラムとして訪れられた中国の教育事情について講演をしていただきました。行政レベル、学校レベルにおいて、日本との教育事情の違いをお聞きすることができました。特に、中国では学校の特色化を進めており、小学校では学校独自の98の科目を設置し、自分の能力による選択が行われているという興味深い話を聞くことができました。施設設備の充実が中国の経済成長をよく表していることもうかがえました。

